

## 令和4年度（2022年度）第3回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和4年（2022年）8月27日（土） 9：30～12：00
場 所	みなみ野小学校2階 家庭科室
出席者	参加者：大倉、大福、大淵、大山、川崎、塩沢、野牧、平野 高齢者あんしん相談センター片倉：安藤 はちまるサポート由木：田辺 第一層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域 PAL-ETTE：打越、鎌田 未来デザイン室：今川、野田、橋本 デジタル推進室：倉田 環境政策課：峯岸 防災課：澤 エックス都市研究所：田中、橋爪、高橋
配布資料	第3回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 資料1 みなみ野中学校区ワークショップの記録 資料2 みなみ野中学校区地域づくり推進会議でこれまでに出了地域課題等一覧 資料3-1 八王子市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画【概要版】 資料3-2 DXとはなにか 資料4-1 八王子市のゼロカーボンシティ実現に向けて 資料4-2 はちエコポイント 資料4-3 環境市民会議募集チラシ 資料5 地域防災に関する取組 将来ビジョン検討ワークシート

### 1 開会

未来デザイン室より挨拶。

### 2 議題「地域の“ありたい姿”を発掘しよう」

#### （1）グループワークの係決め

会議資料をもとに、前回のみなみ野中学校区地域づくり推進会議（以下「推進会議」という。）での取組の振り返り、今回の話し合いの進め方について確認し、進行役（ファシリテーター）及び板書係をそれぞれ一名ずつ選出した。

進行役：野牧氏

板書係：大倉氏

#### （2）“ありたい姿”の見直し及び将来ビジョン案の取りまとめ

会議資料をもとに、今回の検討内容について確認した。その後、“ありたい姿”の深堀りキーワード出し、深堀りキーワードの整理、“ありたい姿”の見直し、将来ビジョン案の取りまとめを行った。主な意見は以下のとおり。

## <主な意見>

### 1) 検討の進め方について

- ・今回は、昨年度開催した中学校区別ワークショップで作った”ありたい姿”を深掘りし、将来ビジョンを検討することを目標とする。進め方としては、”ありたい姿”に入っているキーワードから、『誰とは?』、『居場所とは?』、『自然を愛するとは?』、『人を愛するとは?』という4テーマを設定し意見を収集する。キーワードにない意見については、『新たな視点』や『その他』として整理する。テーマごとに出された意見をもとに、中学校区別ワークショップの”ありたい姿”を修正し、将来ビジョンを設定する進め方でよいか。

⇒参加者、同意。

### 2) 『居場所とは?』について

- ・みなみ野の住民だけの『居場所』ではないと思う。住民以外の『居場所』にもなるまちにしたい。  
⇒他の地域の方にみなみ野へ来てもらうためには、文化施設など核となる施設が必要である。  
文化施設を作り、音楽祭や講座、サークル活動など、市民が集まる場所にするとよいのではないか。  
⇒みなみ野の魅力を発信しないと他の地域の方が来てくれず、住民自身もみなみ野の魅力に気づくことが難しいと思う。魅力を発信する施設や場所が欲しい。
- ・南大沢には映画館や文化施設、また住民が集まれるベンチなどもあり、そこで読書や談笑している人を見かける。しかし、みなみ野には、そうした施設等が少ない。  
⇒駅前に人が集まることのできる広場が欲しい。推進会議のように、一部の住民が小学校に集まって活動していても、外から見ることが出来ないので、小学校が集会場所として利用することが分からない。様々な活動がみなみ野で行われていることを、目で見て認識してもらえるような場所を作ることが重要ではないか。  
⇒武蔵境の駅前にある武蔵野プレイス（図書館）のような施設があるだけで、文化的なまちに見える。みなみ野には子どもの教育に熱心な住民が多い。駅前に図書館や勉強ができる施設を導入することで、まちのイメージアップにつながる。  
⇒めじろ台や相模原などでは、大きな家を所有している人や教会が、交流スペースを開放して小さなコンサートを開いている。  
⇒みなみ野君田小学校には設備が整った音楽室があり、住民にも開放している。ほかにも、宇津貫緑地のログハウスでは、合唱クラブが活動している。
- ・規模は小さいが、みなみ野には図書館も市民センターもある。現在ある施設等を有効に活用することが重要ではないか。
- ・新しい施設を作るのが難しいのであれば、公園など今ある場所の中で、人々が集まる交流拠点を作ってはどうか。例えばストリートピアノを設置することで、人が集まるきっかけになるのではないか。  
⇒多摩ニュータウンでは、空き店舗を使った交流スペースがある。  
⇒スーパーマーケット等、企業と連携して交流の場を生むことも考えられる。

- ・みなみ野で開放されている施設情報について、個人単位では知っている人もいるが、住民同士で共有されていないことが多い。様々な世代で”居場所”について話し合うと、推進会議の参加者だけでは気が付かなかった”居場所”を発見できるかもしれない。
- ・みなみ野5丁目では、シニアクラブの活動が活発であるが、新しい活動場所を求める声は出ていない。活動団体がそれぞれ活発に活動することで、参加したいと思う人も出てくるのではないかな。また、団体同士が連携する場を設けることで、色々なことが出来るようになるのではないかな。

### 3) 『誰とは?』について

- ・みなみ野の住民だけでなく、地域外の人々も含まれる。

### 4) 『新たな視点』について

- ・みなみ野の良さを発信するHP やフリーペーパー等を作成し、情報発信をしていくことが重要ではないかな。

### 5) 『その他(人・ビジョン)』について

- ・現在の推進会議の参加者だけで、20年後の”ありたい姿”を想像するという事は難しいと思う。20年後もみなみ野で暮らす30~50代の住民が何を求めているのかを土台として、将来ビジョンを作らなければならない。  
⇒実効性のある将来ビジョンを作ることが重要。  
⇒推進会議に若い世代が参加していないことが課題である。30~50代は子育てや仕事で忙しく、地域活動に参加することは難しいのではないかな。  
⇒毎月推進会議に参加してもらうのではなく、時折アイデアをもらうだけでも十分である。  
⇒最近の若者は、社会貢献活動をしたことがない人は少ない。地域で活動することや、地域に関係なく同じ目的を持つ人が集まって活動することが当たり前になってきている。そうした若者たちとうまく連携できれば良い。  
⇒アクションプランを作るにあたって、若い世代の意見を聞きたい。さらにその中で、推進会議で活動してくれそうな人材も発掘できれば良い。
- ・将来ビジョンを実現させるには、資金と人材が必要である。特に人材育成が一番大切である。  
⇒人づくりをしっかりとすることで、行政などと協力してより良いまちづくりが出来るのではないかな。
- ・昨年度開催された中学校区別ワークショップで、『みなみ野2代目』というキーワードが出た。めじろ台では2代目にあたる住民がおらず、空き家が増えていると聞いた。みなみ野でも同様に、今後空き家が増えていくと思う。そのため、『みなみ野2代目』をどう育てるかが重要なテーマになるのではないかな。  
⇒『地域のコーディネーター』というキーワードも挙がっていた。町会長や団体の代表ではなく、色々な団体を繋ぐコーディネーターが必要である。めじろ台では、住民で構成されたまちづくり協議会が活動していると聞いた。  
⇒コーディネーターを育成する枠組みを地域で作ることが必要である。

※『自然を愛するとは?』『人を愛するとは?』については意見無し。

#### 8) “ありたい姿”の見直しについて

- ・「居場所」についての意見が多く、スペースとしての居場所と、人と人がつながる機会としての居場所についての話があった。
- ・人を愛するには、人とのつながりが必要で、自然を愛するには、自然と接する活動が必要。そうした活動や場所が居場所になっていく。  
⇒人が集まるフィールドは自然だけではなく、音楽や文化等、様々なフィールドがある。人が集まることで、新しい人に知識や経験が還元され、さらに人が集まっていくという循環が生まれるとよい。こうした循環が重要である。
- ・『愛』という言葉だと抽象的すぎるので、『つながり』、『循環』、『集まる』というワードを入れたらどうか。
- ・みなみ野で生まれて社会に出ていった人々が、いずれ故郷としてみなみ野に戻って来るともあろうと思う。故郷がいい形に成熟していったと感じてほしい。そのために、今どういうまちづくりすべきかという観点があっても良い。

(まとめ)

- ・将来ビジョンとして、『集まって、つながって、風の生まれるまち～人や自然が循環する八王子みなみ野～』を仮設定してよいか。  
⇒良い。

### 3 議題「地域づくり推進計画の共通テーマについて（市からの情報提供）」

会議資料をもとに、DX、カーボンニュートラル、地域防災について事務局から説明を行った。説明及び質疑の内容は、以下の通り。

#### <説明・質疑内容>

##### 1) DXについて

(説明内容)

- ・DXとは、「新しい技術を使って改革を進める」という意味である。また、トランスフォーメーションは、改革という意味と同時に、今までと形を変えていくという意味もある。
- ・DXの例として、回覧板を紙媒体からスマートフォンによる回覧に変えることが挙げられる。紙の回覧板では、各家庭に回るのに時間がかかる、といった課題がある。スマートフォンによる回覧にすることで、一斉に情報発信できるとともに、情報の受け手も次の人に回覧する手間が省けるため、情報を受け取っても良いという人が増える可能性がある。また、会合等の出欠確認も、手作業での集計の手間が少なくなり担当者が楽になるなどのメリットがある。
- ・これまでのやり方を変えて便利にすることで、加入者を増やすとともに、加入者の会合や行事への参加をしやすくし、町会・自治会の活動を活発化させ、持続可能なものにしていくことが大切。
- ・デジタル技術を活用することで、すべてがうまくいくというわけではなく、効果的に活用することが重要。そのためスマートフォンを使えない人への配慮もあわせて行う必要がある。DXのスタ

ートとして、お金をかけずにスマートフォンなど皆さんが今持っているものを活用するところからはじめていただきたい。

(質疑内容)

- ・DXの取組みとして、紙媒体の回覧板をスマートフォンに替えるという例はいかがなものか。高齢者にとっては、回覧板を回すことが見守りにもなっている。地域住民の人間関係がさらに希薄化するのではないか。  
⇒回覧板など、すべてのことをDX化していくべきだということではない。スマートフォン等を活用することで、情報を受信しやすい人が増えたり、日々の活動の効率が上がったりすることがあると考えてほしい。さらに、これまで地域に関わりを持たなかった人と、交流する機会を増やすことにもつながる。(デジタル推進室)

## 2) カーボンニュートラルについて

(説明内容)

- ・昨今地球温暖化による影響で自然災害が増えている。地球温暖化は、温室効果ガスが年々増え続けていることが原因である。
- ・八王子市で排出される温室効果ガスのうち、90%以上が二酸化炭素である。家庭部門の二酸化炭素排出量が多く、これは熱需要、電気、自動車が主な要因であり、様々な分野で対策をする必要がある。
- ・地球温暖化の影響を防ぐため取り組むべきこととしては、省エネによる削減、エネルギーの脱炭素化が挙げられる。市では、省エネ設備や再生可能エネルギー設備の導入(太陽光パネル等再生可能エネルギーの導入には補助制度がある)などを推進している。
- ・エコアクションポイントは、家庭における環境配慮行動の取組みを商品に還元する取組である。例えば、みどりのカーテンを設置することや市内で開催される地球温暖化に関する講座に参加すると、ポイントが付与される。集めたポイントは、様々な商品に変えることが出来る。
- ・政府は2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指すといったカーボンニュートラルを表明した。市でも令和4年(2022年)2月10日にゼロカーボンシティ宣言を表明した。ゼロカーボンシティの実現に向けて、市民の一人一人の協力が必要である。
- ・八王子環境市民会議では、地球温暖化防止のための取組みや里山保全活動を行っており、自然体験講座も開いている。環境市民会議に参加希望の方は、市の環境部環境政策課に連絡してほしい。

(質疑内容)

- ・廃棄物は家庭から回収して分別するという流れがあり、具体的な削減アドバイスなどを市民にしやすいと思うが、二酸化炭素は市が回収できるものではないため、排出量をコントロールすることが大変だと思う。  
⇒二酸化炭素は目に見えるものではないため、発生源が何かを意識しなければならない。電気をつけることや自動車を運転することでも二酸化炭素は発生している。自動車であれば、エコドライブを心掛けるなど、日々の小さな積み重ねを皆様にも御協力いただきたい。(環境政策課)

### 3) 地域防災について

#### (説明内容)

- ・近年の地球温暖化の影響で、災害が激甚化している。市でも令和元年（2019年）の東日本台風や平成23年（2011年）の東北地方太平洋沖地震で土砂崩れや交通公共機関が止まるなど被害を受けた。
- ・みなみ野中学校区周辺のハザードマップを見ると、浸水被害や土砂災害の恐れが非常に少ない地域であることがわかる。しかし、地震についてはどこでも起こる可能性がある。  
⇒みなみ野中学校区では、兵衛側・山田川周辺が河川氾濫による浸水の恐れ、全域で地震による被害の恐れがある。地震に関しては、家の中の家具を固定するなど被害を最小限にすることが出来るが、ライフラインや物流が止まる懸念点がある。
- ・防災の基本として、自助、共助、公助がある。自助は、家具転倒防止をすることや備蓄をしておくなど、自分で自分の身を守ることである。共助は、町会ごとの自主防災組織などに所属し、地域で助け合うことである。公助は、ハザードマップの作成や被害想定検討など、行政が行うことである。
- ・公助は一般的に発災してから約3日後に動き出すことができる。したがって発災時には、自助と共助が重要である。阪神淡路大震災では、助かった方の7割が自助又は共助の取組みを行っていた。
- ・地域で取り組んでいただきたいことの1つ目に、避難所運営協議会の設置がある。避難所運営協議会とは、避難所の周辺地域にお住まいの方で結成し、被災時の避難所の運営方法を平時から決めて備えておく組織である。みなみ野では、建物に及ぶ被害は少ないことが想定されるため、在宅避難が基本になると思うが、被災時の情報収集に避難所を活用することが考えられる。なお現在、市内では15校区で協議会が発足している。
- ・地域で取り組んでいただきたいことの2つ目に、地区防災計画がある。一定の地区の住民が、自発的な防災活動について策定する計画である。市が策定した地域防災計画の一部として認定する取組も行っており、現在3団体の計画を認定している。避難所運営協議会の活動の中で作ることも可能である。
- ・推進会議自体を避難所運営協議会とすることもできるし、協議会とせずに地区防災計画を作る取組を進めるだけでも可能である。地域で助かる取組を推進してほしい。

#### (質疑内容)

- ・災害発生時における高齢者などの移動困難者の補助に力を入れてほしい。移動困難者を支援する団体との連携や働きかけを行ってほしい。  
⇒庁内の福祉政策課では、移動困難者ごとに個別避難計画を作成する取組をおこなっている。防災課も移動困難者の支援に協力していきたい。(防災課)
- ・災害時に避難先として指定された学校へ避難した際、門が施錠されていて入れなかったという事例を聞いた。市では、避難場所に指定された学校のカギの管理をどうしているのか。  
⇒各避難場所の近くに居住する（徒歩30分圏内）市職員を緊急時応援職員として指定している。震度6弱以上の地震の際には、緊急時応援職員が避難場所の開放や誘導を行う。また、10年以上前には、避難場所の学校長と町会長が連携して、校門のカギを共有することもあった。なお、風水害の場合には、すべての避難場所を開放しているわけではないので、注意してほしい。(防災課)

#### 4 議題「次回の検討にむけて」

会議資料をもとに、第4回会議の進め方、及び自主活動の内容について確認した。検討結果は、以下のとおり。

##### <検討結果>

##### 1) 第4回推進会議の進め方について

- ・第4回は、第3回のように事前ワークをすることで、グループに分けることなく、全体の話合いで良い。意見を合わせる時間も節約できる。
- ・事前ワークとして、今回できた将来ビジョンに追記変更等があるかの検討、将来ビジョンを実現するための取組（キーワード程度）の洗い出しをしておく。
- ・第4回以降も、議事概要を作成する記録係は決めず、事務局が記録を作成する。

##### 2) 自主活動について

- ・第4回までに、子ども家庭支援センターや保育園・幼稚園、小中学校の職員にヒアリングしたい。  
(欠席者からの事前提案)  
⇒未来デザイン室を介して、提案者とヒアリング先、日時等を調整の上、参加希望者に打診する。
- ・第5回までに、30～50代の働き盛り世代の住民に悩み事や関心事をヒアリングしたい。  
⇒まずは、提案者に企画してもらい、参加者と共にヒアリング対象・方法を検討する。(エックス都市研究所)
- ・町会の班長が30～50代に該当すると思う。町会の定例会に参加してヒアリングすることは考えられないか。  
⇒町会に参加していない住民にヒアリングした方がよい。  
⇒まず、提案者に企画してもらい、参加者と共ヒアリング対象・方法を検討する。(エックス都市研究所)
- ・先行して取組を進めている川口中学校区の推進会議の参加者にヒアリングを行う。9月17日に事前ヒアリングを行い、参考になる情報を聞けるか確認する。

#### 5 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

※共有情報なし。

#### 6 閉会

次回の推進会議の日程等の確認を行った。

第4回：令和4年（2022年）10月22日（土）9：30～12：00 みなみ野小学校2階 家庭科室

※第2回推進会議の議事概要（案）の修正があれば、令和4年（2022年）9月4日（金）までに未来デザイン室へ申し出てほしいことを伝えた。

以上

# 将来ビジョン検討ワークシート

## みなみ野中学校区のありたい姿

ここで生まれた世代のふるさと

スタート

### 中学校区別w s 結果

☆誰にとっても私の居場所 みなみ野  
 ☆みなみの愛 ~自然を愛する、人を愛する~

### ステップ② 改めて、一言で!

集まって、つながって風の生まれるまち  
 =人や自然が循環する八王子みなみ野=

みなみ野が「ふるさと」になる世代にどんなふるさとを残すか

集まって、つながって風の生まれるまち

### ありたい姿 <具体的なイメージ>

### ステップ① ありたい姿を深掘。もう少し詳しくイメージしてみる

#### 誰とは?

居場所  
 ・物理的なスペース  
 ・人が集まる機会

みなみ野住民だけでない。みなみ野に訪れる人も

高齢者は老人会を活性化させるとよい

みなみ野 5 丁目老人会が活発(シニアクラブ) 市内全体でシニアクラブ。町会の活動を盛り上げたい

最終的には地域の企業も巻き込むことが必要

楽しく過ごす事が大切 今あるものを利用して居場所を作ればよい

もっと町会の活動に参加すべき。今あるものをもっと有効に使うべき

町会や老人会にもっと積極的に参加してほしい →楽しい!

公園を活用して人が交流する場所を作っていく

#### 自然を愛するとは?

公園を活用して人が交流する場所を作っていく

今ある公園を使ってコンサートやイベントを催してほしい →文化発信

循環 地域としてのつながり

#### 居場所とは?

市民センターが欲しい →地域の文化発信の場

南大沢は 3rd プレイスとして先行している

駅前に知的な施設があると魅力が増す

例 まちかどコンサート 決まった日時に音楽を聴ける、楽器に触れる

南大沢の文化的環境が羨ましく思える

交流できる場、それをみんなが知ることができるといい

#### 人を愛するとは?

人と人のつながりを作ることが先。その後に「ビジョン作り」ではないか?

地域コーディネーターを設置してもよい まち会 同士、団体 同士を結びつける

人が集まる事ができる(交流できる)場所が欲しい。駅近くに...

もっと大きい図書館 or 学習できる施設があるといい

楽しく過ごしたい →今あるもので十分 →もっと開放すればいい

リハビリが盛ん →簡単な体操などで人が集まるのでは

病院やスーパーはあるが文化発信施設がない →協会を使うとかでもよい。持っている人が貸す

空き家を使ったスペース →麻雀、親子の学習スペース、障がい者の施設 →今ある施設の中で人が集まれる場所を!

・みなみ野病院には無料で借りられる部屋がある  
 ・宇津貫緑地のログハウスにも借りるスペースあり

文化的イベント(2~30 人参加)が気軽にできる場所があると良い(私的施設を借りたり...)

地域資源をもっと活用 ex みなみ野君田小の音楽室

#### その他(人)

30~50 代の人材をビジョン検討に入れないと、机上の空論で終わってしまう →何を考えているか知りたい

30~50 代は仕事と子育てで忙しい →地域に目を向けることは難しい

Z 世代は地域活動を活発に行っている

みなみ野 2 代目をどうつくるか

推進会議に若い人が必要である →声を聞くだけでも必要

推進会議に若手が加わっていないことが問題

#### ビジョン

行政がのって行く方向を目指すべき

20 年後を目指したビジョンを考えたとしても現実には限らない

未来のビジョンはできるものではないといけない →お金と人 →特に人が大事

市の「10 年後を目指したビジョン」も存在する。実現可能なビジョンが必要

身近な人から接触し、そのあとビジョンだと思おう

ビジョンを作りアクションプランに移った時には若手の意見を聞くべき。後継者育成

#### 新たな観点

理想と現実はどう向き合うか →施設が造れず住宅に変わってきた →長期ビジョンが必要

市は開発に力を入れているが、小さいことには縦割り動かない

学校の音楽室を開放することもよい

#### 発信

ストリートピアノのようなアクセントが欲しい →好きな楽器を空きスペースで弾けるとよい →まちかど音楽

モノレールがあるといい 地域の活発化が期待できる

みなみ野の情報を発信するツール(HP、フリーペーパー)を作る

文化を発信できる拠点が欲しい

地域資源の情報収集、周知する事が必要